

備陽史探訪

NO.14

発行
備陽史探訪の会

の再

山陰
びんご
びんご
びんご

発行所
福山市西深津町
1863-2
神谷和孝

出雲の国へのいざない

会長 神谷和孝

昨年、会として初めて紅葉を賞
でに、吉野へ一泊旅行を実施しま
した。会員はまだ二十名に満たな
い状態の時でしたが、一泊の旅を
通して会の結束は随分と高まりま
した。

現在、会員相互の努力により、
発会当初の念願であった会員百名
を数える事が出来、これを記念す
る意味を含めて、発会当時からの
希望の多くあった出雲地方へ、大
型バスを使用した一泊旅行を實
施する事になりました。

七月下旬に役員数名で、コース
の下見を実施しましたが、今回の
コースには、島根県飯石郡菅谷の

高殿(たたら)、松江市の八雲立つ風土
記の丘及び近接する国斤跡と国分寺
跡、国分尼寺跡、尼子氏の再興に身
命をかけた山中麿之介で知られる富
田月山城、足立美術館、安来の清水
寺等に、見学のポイントが数多く含
まれ、下見に参加した一同も、この
コースだ、ただ、参加しただけの

皆様に、必ず満足して戴けるもの
との意見の一致を見ました。
今回のコースの中で特に庄巻は、
島根県菅谷のたたらでしよう。菅谷
のたたらを見学し、帰途安来の和鋼
記念館を見学していただいたら、古
来から製鉄がどのように行なわ
れたか、ハッキリ理解していただ
けるところです。
下見をした場所を一つ一つ想い出

すにつけ、各々の場所が、早くお
いでよと手招いて呉れているよう
です。
まだ席も多少空いていますので
御参加いただいたいて、秋の一日を心
ゆくまで楽しんで戴ければ幸いです。

覆面潜入 **撃ルポ** へ例会寸評

その4 末森清司の巻

担当の七森氏のキツいお達しに
より今回から突撃ルポは900字以内
と大幅な制限を受けることになっ
てしまつた。好きにさせておくと
いつまでもダラダラ長くなるこの
ルポには会報編集委も手を焼いて
いるらしい。しかし我々の食生活
を考えてみても、どうせニコニコに
なるからといつてその部分が必要
要なわけではあるまい。かくの如

く確かな栄養源はそれが膨大な無駄
とも思えるものに包まれていてこそ
摂取できるのである。このことに関
して私は会報編集委に説明を求めた
い。小意気な答じゃなきやダダよ。
さて末森さんであるが今回はまこ
とに書きにくい。元来私の文章は一
見普通の生活を送っている人のちよ
つとしたおかしみを極端に拡大する
ことによつて異なつた人物像を描き
出すところには味があると思ふのだ
がそれが今回は使にくいのだ。は
きり言つて末森さんは普通でないか
ら。
今回初参加の人にはもしかすると
末森さんはこの会の又三の様に思
たかも知れないが実はまだ半年足ら
ずで、会員歴一年の私としてはい
い、頭が高いわといはつてみたいの
だけれども初めて会つた時から今の

様な調子であるので、うも迫力負
 けてしまふのだ。大体歴史をや
 る人は謙遜癖が強く「私まだ勉強か
 浅いもので」といったりや私なんかも
 何も解らないんですよ。まあ共に
 学んでいきましょう」と非常に嘘臭
 いセレモニーマがまずあって、それ
 から話が始まるのだが、こあゆる
 黙契を無視する末森さんにはまず
 「ごく上品な歴史愛好サークルは存
 じめまい。だからうちの会に居付
 いてしまっているのである。
 (紙面の都合で少々はしよって書
 くけれど)だからと言って末森さ
 んが単なるお調子もの「で」出たが
 り症候群だとゆーわけではない。
 想うにこの人程「場」というものを真
 剣に考えその雰囲気作りにはイノチ
 を賭ける人はおらぬのではあるま
 いか。例えば例会の帰りのバスの
 中、カウオケの夕ネも尽きて白け
 た気分が蔓延する頃末森さんがほ

とんど空転。そんな騒ぎで奮闘して
 いる姿は非常にありかたく、そのこ
 とを想うと私は深夜そと枕を隔ら
 したりもするのだ。(と言ってもヨダ
 レのことじゃないぞ。末森さんは現
 在さる業界誌に「ドジな塗装屋の語」と
 いう連続ものを書かれていて、御自
 身の失敗談だと思ふのだが本当にド
 ジな人間にはドジな話など書けまい。
 ちよとど落語家や慢才師が馬鹿では
 務まらない様にだ。恐らく、とい
 つてもあたりまえのことたるうが、末
 森さんは職場や家庭ではまた違った
 風貌をしていっているに違いない。私
 が薄いのか「備探」に集って行く人達
 が普段どの様な生活を送っているのか
 想像を馳せたことがない。しかし末
 森さんの場合には「この人が例えは
 家庭でどの様なオヤジぶりであるの
 か一寸のぞいてみたい気がする。」と
 にかく興味を尽きぬ人ではある。

てんぐさの蒸けを固め、ところ
てんぎきに入れて押し出すと、と
ころてんになります。冷やしてカ
ラシをつけ、千、千、千、ウツ
美味。固まりの僅食べたがうまく
なかつた。 編集部

竹原を訪ねて

井上清

九月拾八日(日曜)竹原史跡めぐり
に参加させて頂きました。
愛の多い天気でした。でも小生に
は晴々とした朝でした。
午前八時三十分頃バス来る。
赤坂よりバスに乗リ久振りに会員
の皆様にも再会、之より一路竹原に。
車中で末森氏のユーモアたふふり
な説明を聞きながら乗しく有意義
な一日に成ると思いました。
途中本郷駅で広島より友(仲間)二人
参加。拾時過ぎ第一の目的地へ。

小早川家の居館跡、其他初めて見る
物ばかり諸先生の説明を聞きながら
皆様本當に詳しいので感心しました。
小生感じた事は長い年輪が刻まれて
居ると思つた。その後城跡頂上見学
食事頂上から見た景色は目をみはる
ばかり、美しかった。

一時まへ下山して竹原の古い街並み
それと春風館、頼椎旧宅見学。目に
ついた事はゴミー一つなくきれいに
たづけてあり見るから好感がもたれ
た。特に照蓮寺の庭園は立派で美し
かった。四時半頃竹原をあとにして
家路についた。
参加する度に見る、聞く、教文ら
れ、小生頭を働かして老化しない事
を信じていつまでも長生きしたいで
すね。最後に小生足を痛めて皆様に
大変に迷惑をお掛けして本當に済み
ませんでした。おわびをします。

備陽史の友とつれだち竹原へ



わが町 金江

牧平雅美

松永駅から南へ約一里、そこにわが町金江がある。金見村と藁江村が合併した町である。

藁江は中世の昔から、大きな荘園として史上有名だった。今は、穏やかな山村部落として、名を残している。

今日、青少年の家が設立されて、毎日貸切バスが二台六台とや、て来て、宿泊研修している。観音の研修の人が絶えない。行事

のある時は自家用車が 百台、二百

台と来て、駐車出来ず、四ツ塚、六ツ塚のほとりまで来て、駐車する。

山の上に吉備高島と、名乗りを上げた天津盤境がある。眼下に山路機谷氏が私財をまわって造成した岡本池

がある。この説明碑を、菅茶山の石碑と共に、ライオンズ、松永津郷土史会、藤井高一郎氏の奉仕によって

建てられた。編集部より、初めて此様な文を載せました。かがでしようか。

石造物と仏教

宮宗正人

吉備地方史跡めぐりの時、堂応寺に在りました宝篋印塔を拝見。因指定の重要文化財だけに堂々たる立派な

の重要文化財だけに堂々たる立派な

の重要文化財だけに堂々たる立派な

(6) 備陽史探訪

1983年10月1日

作

ても何の事やら判りませんでした。間違ったのてしよとの由、知らぬ
 北アク南ダラク東ウー西ギガ仏とは將に此事でしよ。リ
 一クと記して在り何の事が判り私くしは過去五十年余り石材の卸
 ません。家に帰り色々調べて見ま尚を致し特に石造物には趣味をもち
 した。密教の金剛界曼荼羅を種子鳥居、宝篋印塔、五輪塔等、又、古
 で書き南は正面で(不)アラク宝生い御墓を拝見するのが好きです。から
 如来を祀り、北面は(分)アク不空成高野山にも三回登りました。二十八
 就如来を祀り、東面は(分)アク阿万体の霊が眼る日本一の霊域です。
 開如来を祀り、西面は(分)アク阿大名、小名、有名人、庶民、今日の
 陀如来を祀り、四方に梵字で仏を高野山の基礎を築いた空海の偉業に
 刻んで有ることガ判りました。は感心の外ありません。私は歴史と
 の宝篋印塔を拝見に参りました。も仏の教へに生きがいを感じて一歩で
 丁度初尚さんが庭に居られました。を週したかと思ひます。密教に付て知
 ので刺を通じ説明して下さいます。り得大事を一筆記します。
 大。室町時代の作でしたか説明の編纂部より
 途中に南の宝生如来が此向に据付最後のページの図(1)を参照し、宝
 て有ることガ判明して住職も今迄印塔について山城志二巻二号を買
 気付かかた。云われました。って読んで下さい。定価二百五十円
 阿陀如来は西方の浄土に在るべき。ついに出来る未森氏の未公開原稿！
 なの東方に向て有り据付の時、

ついに出来る未森氏の未公開原稿！

本郷例会を振り返り

末森清司

また小早川家を中心とした遺跡はまだまだ多く在郷の地に残っています。

本郷を中心とした沼田文化の史

又の機会に沼田文化の旅を皆様と一緒にしてみたいと考えています。

梅雨期には雨が降らずに上

それまでに沼田の歴史文化遺跡の勉強を少しずつですが行なっています。

た。備陽史探訪の会の方々は余程

資料集も色々集めて皆様にご供し

平素の行いが良いのか必ず良い天

又、この度の説明案内役として

今には百年前迄は沼田川を中心

下調べを何回もして下さった山口氏

して大いに栄えた所です。この沼

私の好きな沼田の歴史のある町の

史跡を会の皆様と一緒に見て

史跡を及び廻り歩く事を楽しまして

代々梅木平の古墳と日本の三代

・会員近況

山城である小早川隆景公の新高山

転出する人少三谷美子さん

午町田の風景がかがた沼田

仕事の間係上京都に移ることにな

日時の間の関係で見学出来なかつた

送別会の乱痴気騒ぎは三谷さんの

小早川家の墓所の有る米山寺を参

の送別会の乱痴気騒ぎは三谷さんの

の趣味に合わなかつたかしれぬが
 我々精一杯の贈る言葉である
 汲んでほしい。(実は自分が楽しんで
 いるだけだった)りして惣三谷さん
 へ、新しい環境での生活は気が抜
 けなくて大変だろうが、その為
 に出来るだけヒマを作って帰って
 来たらしい。ほら例の時の小舟に
 乗りこんで (らぶこ)
 ♡結婚：井上の良さんが近頃とん
 と顔を見せなくなつたと思つてい
 たら、この秋結婚するそうた。お
 まけに当会秋の遠行のおさそい
 蹴って新婚旅行を行うという。ほ
 しか、ほしか、ええ度胸じやのう
 と一部若手会員の間で不穏な空気
 が拡がっている。

編集部より
 三谷さんの新住所は不明です。
 井上さんおめでとう。

古墳部会活動報告

古墳の研究を通じて備南地方の古
 代史を解明しようとして結成された
 部会です。先ず時代的流れを把握す
 るという基礎の勉強を七月から始め
 て現在まで古墳発生の前段階の弥生
 時代から古墳の発生に至るまでの勉
 強をして来ました。今後、基礎勉強
 が終わると野外に出て実地に古墳を見
 て廻り、主要古墳の実測調査、分布
 調査をしてゆく予定です。又、小冊
 子は原稿が集まり次第順次発刊の予
 定です。興味のある方、勉強したい
 方は御入会下さい。

・ 講座日時 毎月第二・四水曜日
 午後七時～八時三十分

・ 場所 福山市丸ノ内町

・ 尚、資料代として若干の費用要。

・ 連絡先 山口哲晶 TEL 四一、二〇四九

・ Q&Aコーナー

北塚と大佐山白塚の場所と道順を教
 えて下さい。

1. 北塚古墳
所在地：福山市駅家町大字服部

永谷字永谷

道順：中国バス福山―服部線永谷下車、バス停東側の丘陵斜面。小さな川を渡り、土手道を北行して東丘陵に入る。徒歩五分。

2. 大佐山白塚古墳

所在地：芦品郡新市町大字戸手

字中戸手大佐山

標高百八十八米の大佐山頂上付近

道順：中国バス福山―府中線戸手商高前下車。北方十三池南側堤を通り山添いから最初の谷道を頂上めざして登る。バス停より徒歩五十分。

以上、道順は「広島県の主要古

墳芸備才九集(芸備友の会発行)によりました。実際のところ、自分で歩いた道順を聞かれても、どのようによ明していいのかわかりませんので右記の書物より転載させて頂いたました。上記の道順で尚わかりにくい方は、道順を知っている人と一緒に行くか、又は古墳部会の人々と一緒に行く事をお勧めします。

(係より：紙面不足により、地図の転載ができませんでしたが、お詫言ひします)



質問その2

神奈備について教えて下さい

古代の人々が神の降りて来る所
 として捧んだ山の形態には、浅間
 型と神奈備型とが有る。
 浅間型の山は雲がかかっていたり
 様な高所での険しい山後に修験道
 が栄えるを指し、神奈備型とは集
 落の近くにある美しい山後に古社
 が造立されるを指す。
 共に円錐形笠形をしていて、
 かも山頂、中腹、麓のいずれか
 神籬を造って祭祀を行って
 正称下は「神奈備」と書いて「かん
 び」カムナヒトヒト呼ばれるが、
 備、神奈備、神名樋、甘南備、三
 山の三室山等、神奈備、神奈
 備の語源は、神奈備、神奈備、
 備の語源は、神奈備、神奈備、

転訛したという説が有る。

注① 磐境 清らかな岩石に囲まれた
 一画の淨域で、磯堅城と洞意であ
 る。此は、一個(枚)の岩石を云った
 り、此は、一個(枚)の岩石を云った

注② 神籬 靈室樹の意で有り、神奈
 備より小規模のものを云う。

注③ 三諸山 三室山、御室とも呼ば
 れ、神奈備、神籬と同じ意味を持
 っている。

お知らせコーナー

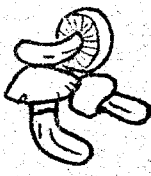
寄贈図書紹介

郷土史往来

3、6号 S.53 S.57.3

神石町山城分佈調査書

(松永湾郷土史会発行・岡田五郎氏より) (神石町教育委員会発行・武島氏より)



三次風土記の丘 No.1 No.11
 (三次風土記の丘友の会発行) S56.2
 備後風土記 1983 S58.9

(福山電電郷土史研究会)

下伊那の古墳 S51.7

甲府盆地の古墳 S51.12

甲府盆地の積石塚 S52.5

秩父古墳調査中間報告書

秩父古墳調査最終報告書 S55.0 S53.11

(歴史民族研究会・豊田氏より)

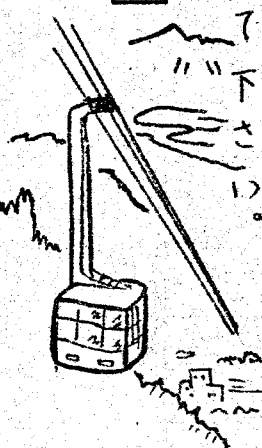
帝釈峽洞窟造跡

(広島県埋蔵文化財研究所・武島氏より)

以上は七森氏宅で保管していま

すので利用して下さい。

行事案内



10月例会 9日・10日 出雲地方一泊の旅

「楽しい旅になりますよう皆様の御
 協力をお願い致します。(宴会係)」

※集合時間厳守・保険証等忘れずに

第11回歴史談話会

場所 福山市民会館第1会議室

日時 10月23日(日) AM 10時~11時30分

テーマ 備後宮氏について その1

講師 本会副会長 田口義之

会費 会員 100円 非会員 200円

11月例会

3日(文化の日)

瀬戸内海の水軍の遺跡めぐり

講師 森本繁先生(誠え館通信制)

鞆の浦発 8:30 | 弓削水道 | 佐島 |

岩城島 | 野(熊)島 | 鼻繰瀬戸 |

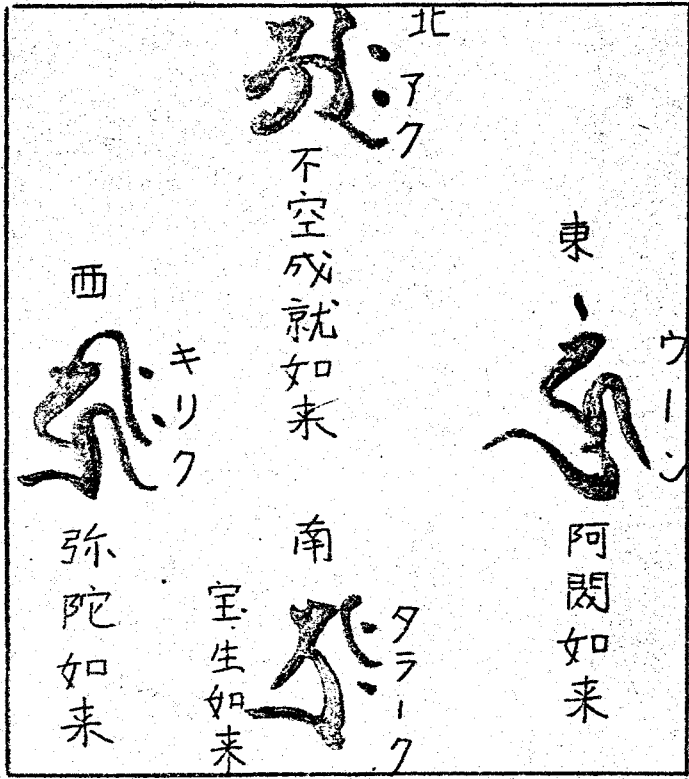
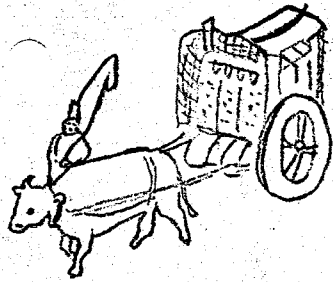
尾道着 17:00

詳細は後日御案内致します

例会・談話会について

皆様の御意見を聞かせて下さい。
 より充実した内容にする為には卒
 直な批判、建設的な意見が必要で
 す。皆様の声を会長、副会長又は
 実行委員へ届けて下さい。

右の図は宮宗氏の「石像物と仏教の説明図」です。



編集後記

・ 今月も貴重な原稿を多数お寄せいただきありがとうございました。御多忙の中を執筆下さった方々に編集委員一同深く感謝します。

・ 原稿は常に募集中です。「私の町」の私の好きな史跡、質問等、歴史に関する事を六百字以内で左記迄送って下さい。

〒720 福山市川口町398の13
種本実

TEL 54-2047

・ 十月といえは「神無月」とも呼ばれ、国中の神々が出雲大社に帰ってしまふ故だそうである。出雲地方では「神無月」と呼ぶそうです。

・ 上下町の「かかし祭り」といえば六月の「あやめ祭り」と共に同町の二大祭りの一つとして有名です。11年の歴史を持つ「かかし祭り」は若者の町離れを防ぐのが最初のネライだ、たしか同町には350年前の代官所の跡も有り一度行ってみて下さい。